

東京都産とうもろこしができるまで

写真・情報提供：JA東京みどり

※産地、品種等により時期は多少前後します。
※今年収穫されるところこしではありません。

3月上旬



①たい肥をたっぷりあげる

3月中旬



②トラクターで畑を耕す

3月下旬



③マルチ※を張る

※畑の畝（うね）を覆う資材。周りに雑草が生えにくくなり、土壌が雨に削られるのを防ぐ。他にも、保湿など様々な効果がある。

3月末～4月上旬



④種を1つの穴に2粒ずつ撒く

万が一発芽しない場合に備えて2粒ずつ撒く。



種を撒いて20日後の様子

5月上旬頃



⑤1つの穴につき1本に間引く

栄養を1本に集中させるために、生育の良い方だけを残す。



雄穂※(ゆうすい)が出た様子

※とうもろこしの茎の先端に生える雄花。雄穂は雌穂(しすい、雌花)の前に開くので、他家受粉率が高まる。他家受粉とは、他の株から花粉をもらうこと。

6月下旬



⑥収穫（種を撒いてから約90日）



とうもろこしの種

種が赤いのは、病害虫防除のために殺菌剤等の農業で種をコーティングする「フィルムコート」という種子処理加工を施しているため。



害獣防除のための電気柵設置

写真はハクビシン防除。電気柵の設置は生産地による。



強風による倒伏

倒伏は、収穫作業の効率を下げたり、収穫ロスによる収量の低下など、とうもろこしの安定した生産を妨げる要因となる。